

# 佐久市文化振興計画の体系図

## 第一次佐久市総合計画

叡智と情熱が結ぶ、21世紀の  
新たな文化発祥都市

第3章 1. 基本理念  
(進むべき方向へ向かう考え方)

第3章 2. 基本目標  
(基本理念に基づく全体の姿を表現した言葉)

第4章 文化振興の基本方向  
(基本目標を達成するための施策の柱)

第5章 文化振興計画の推進について  
(施策の柱に対する具体的な事業)

- ◆芸術文化普及(アーティストバンク事業・まちじゅう音楽祭・(仮称)佐久市民音楽祭 等)
- ◆芸術文化育成(子ども芸術鑑賞会・音楽鑑賞教室 等)
- ◆文化施設の連携(さくぶん連携事業、文化施設館長会議 等)
- ◆文化活動団体の支援(佐久市文化事業団・各地区太鼓演奏団体・臼田文化協会 等)
- ◆地域の魅力再発見と伝承(佐久の先人検討事業・わがまち市民講座 等)
- ◆市内文化財の管理保存と活用(旧中込学校・龍岡城五稜郭・真山家住宅 等)
- ◆芸術文化に関する情報提供(文化事業団による情報発信・サポートセンターの活用)  
など

# 佐久市文化振興計画(素案)

## 第1章 文化振興計画策定にあたって

## 文化振興計画策定の概略

### 1. 文化振興の意義

### 社会全体の中で文化振興を図る一般的な理由

#### キーワード

- ・ 文化による心豊かな活力ある生活を送る必要性
- ・ 社会構造の変化
- ・ 少子高齢化社会の進展
- ・ 限界集落の出現や荒廃した里山
- ・ 核家族化による世代間交流の減少
- ・ 就業形態の変化による精神的・時間的余裕の減少
- ・ 地域に残る豊かな自然や貴重な文化財、先人たちの業績を後世に引き継ぐ必要性
- ・ 多様化する住民ニーズへの対応
- ・ 佐久市では住民投票により文化振興の方針の変更

### 2. 文化をめぐる背景

### 社会全体における文化の歴史や現状の一般的な認識

#### キーワード

- ・ 物質的に豊かで便利な社会、反面は効率的でスピードが求められる社会
- ・ 災害により見直された地域のつながり「絆」
- ・ 高齢化社会の進展による余暇時間を持った高齢世代の増大
- ・ 高速交通網の発達やインターネット・携帯電話の普及により市民ニーズが多様化
- ・ 文化庁の文化に関する世論調査では地域の文化環境に52.1%が満足と回答
- ・ 地域文化の環境を満足できるものは38.9%が「子供が文化芸術に親しむ機会の充実」と回答
- ・ 文化芸術を振興していくために国が力を入れる項目「文化財の維持管理」、「文化芸術を支える人材育成」、「子供たちの文化芸術体験の充実」がそれぞれ7割を超過。

### 3. 文化振興計画における文化の領域

### 計画の中で扱う文化の領域

#### キーワード

- ・ 文化芸術基本法との整合性を踏まえ同法が対象としている範囲を基本とする
  1. 芸術(文学、音楽、美術、写真、演劇、舞踊等)
  2. メディア芸術(映画、漫画、アニメーション等)
  3. 伝統芸能(雅楽、能楽、文楽、歌舞伎等)
  4. 芸能(講談、落語、浪曲、漫談、漫才、歌唱等)
  5. 生活文化等(茶道、華道、書道、国民娯楽、出版物等)
  6. 文化財等(有形及び無形の文化財等)
  7. 地域における文化芸術等(伝統芸能・民俗芸能等)

### 4. 計画の性格と期間

### 計画の持つ性格と計画期間

#### キーワード

- ・ 第一次総合計画 10年(5年で見直し)
- ・ 生涯学習基本構想・基本計画 10年(5年で見直し)

### 5. 市の関連計画等との位置付け

### 他の計画との関連と文化振興計画の位置づけ

#### キーワード

- ・ 第一次総合計画が最上位計画
- ・ この計画は芸術文化の分野に焦点を絞った計画
- ・ 生涯学習基本構想・基本計画とは多くの部分で重なり合う
- ・ 佐久市民憲章

1. 佐久市の文化の土壌

佐久市全体の文化の現状及び、その背景

キーワード

- ・ 豊かな自然に囲まれ、重要な文化財など多くの文化資源を持っている
- ・ 災害が少なく医療体制も整っており安心して暮らせる地域である
- ・ 佐久市は大きなお城がない小さな集落が集まってできた市である
- ・ 地域性が強く、地元への愛着が強い
- ・ 佐久市が文化芸術の盛んなまちと感じている人は24.1%である
- ・ 旧中込学校や龍岡城・高良社・真山家住宅など重要な文化財が多く点在している

2. 文化芸術活動の現状と課題

活動の現状と課題

キーワード

- ・ 活発に行われている公民館活動
- ・ 公民館活動への参加は女性が多く、年代的には退職後の高齢世代が多い
- ・ 子どもの減少により地域文化の伝承が困難となっている
- ・ 1年以内に文化芸術を鑑賞していない人は53.4%
- ・ 1年以内に文化芸術の活動をしていない人は80.1%
- ・ 活動している人は鑑賞もする割合が3.7倍高い
- ・ 活動や鑑賞をしない人は時間がないと感じている
- ・ 文化を盛んなまちと思っていない理由は38.7%で情報が身近にないと感じている
- ・ 今後の文化振興に必要な事は気軽に参加できる文化芸術活動
- ・ イベントの盛り上がりは企画段階からの市民参加

## キーワード

- ・ 文化施設が点在しており連携して有効に施設を活用するには工夫が必要
- ・ 多くの施設は経年による修繕などが必要である
- ・ 施設の魅力の一つは人材であり、その育成が大切である
- ・ 主に展示を行う施設では展示替えなどで、来館者に新しい魅力の提供が必要
- ・ 公民館活動は身近な文化活動であり地域公民館がその活動拠点となっている
- ・ それぞれの施設が持っている特徴を生かした運営が必要
- ・ 既存施設の最大活用を図ることが必要